

## 島津・大友・龍造寺三氏の覇権争いと九州静謐への道のり（その1）

### 小早川隆景

#### 関白秀吉に九州静謐を進言

天正13年（1585年）11月上旬、小早川隆景<sup>※1</sup>は秀吉に面会し、「龍造寺・大友・島津の三氏が、武を争い続けていることにより、国民は勞れ患<sup>つら</sup>っている」と訴えました（『九州治乱記』）。これを聞き入れた秀吉は、「弓箭<sup>きゅうせん</sup>」<sup>2</sup>を取り鎮め、九州静謐<sup>せいひつ</sup>す<sup>3</sup>べき旨<sup>きざし</sup>」を指示します。

覇権を争っていた三氏は、この指示を受けて和平の態度を示します。ところが間を置くことなく、島津義久が大阪へ使者を派遣し、秀吉に「非は他にある」と直訴します。この動きを知った大友義鎮（宗麟）も軍勢を率いて自ら大阪で直訴し、2月には龍造寺政家（隆信の跡継ぎ）も使者を派遣して直訴します。このように三氏ともに直訴したことで、たちまち和睦は破れます。

最初に動いたのは島津氏で、筑後地域では秋月・蒲池・星野・間注所の諸氏が同調します。龍造寺氏には草野・西牟田・田尻・高良山座主の諸氏がつきました。『九州治乱記』によると、島津方だっ

た筑紫広門が、高橋紹運の意を汲んで大友方についたといえます。島津氏にとって、まづ筑紫広門を討つというのが挙兵の名分でした。

天正14年6月27日、島津氏は筑後国竹井原（現在のみやま市高田町竹飯の一带）に着陣します。筑紫氏攻略が首尾よく進めば、岩屋城や立花城に加え、龍造寺氏の拠城をも攻める魂胆があったともいわれます。

島津氏の軍勢は、島津忠長・伊集院忠棟を大将に計5万騎。同6月29日には山下（現八女市立花町山下）に着陣していることが、島津方の武將である上井覚兼の日記で明らかです。

#### 島津の軍勢が広川谷に侵入

『筑後将士軍談』や「家勤記得集」には、7月1日「上広川ニ押寄ル由聞エケレハ」とあり、古賀館の稲員安守は跡継ぎの安直とともに、長延村に新しく山王山城（西城とも）と城ノ尾城を構えます。同3日には、いよいよ島津の大軍が襲来。民家に火を放ちながら両城に攻めかかり、これを落とします。翌4日には

甘木城（鬼ノ口城）を攻め落としました。

8年前の日向耳川の戦い直後、龍造寺勢の攻撃を何とか防ぎきった甘木家長<sup>あまぎいえなが</sup>でしたが、今度ばかりは大軍を前に防御もかなわず落城。甘木城118年の歴史は終わります。

※1小早川隆景……毛利元就の三男。備後国（現広島県東部）小早川氏を継承。豊臣秀吉に重用され、中国地方の経略を担う。九州平定後は筑前一国・肥前二郡・筑後二郡を拝領する。

※2弓箭……弓と矢。武器をとって争うこと。

※3静謐……穏やかに収まること。



五カ村堰から鬼ノ口城跡（正面の山）を望む。山頂部に城跡が残る。（鬼ノ口区）

### 広川町古墳資料館だより

石人山古墳の石棺前面に繁茂している藻類について、「環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究」（東京文化財研究所・2018年）がまとめられています。この研究成果と町の整備検討委員会の提言を受け、石棺保護施設の開口部分からの日射量を減少させる「遮光カーテン」を設置しました。

フゴッペ洞窟（北海道余市市）でも同様の藻類が見ら

れますが、これは水分が要因と考えられています。石人山古墳は温度や湿度を変えると、ほかの問題が発生する恐れがあるため、午後の強い西日を先行して軽減する方策を選択しました。

遮光カーテンは、石棺を見学するのに支障ありません。資料館職員が日射状態を観察しながら、開閉度合いなどを決めていく予定です。

# 総 合 ク ラ ブ ひ ろ か わ

## 定例教室で健康づくり・仲間づくり

現在、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため中止しています。再開のめどが付き次第、参加者へお知らせします。

教室名	内容	期日	時間	会場	参加費
スポーツ吹矢	腹式呼吸をベースとし、集中力や精神力を養います	毎週(火)・(金)	10:00～12:00	古墳公園資料館	月額 2,000 円
リラクゼーション・ヨガ	寝・座を中心としたやさしいポーズを行います。日ごろ動かさないところを伸ばし、体も心もリラックスします	第2・3・4(火) 2回コース 3回コース	13:30～15:00	古墳公園資料館	[2回コース] 月額 1,500 円 [3回コース] 月額 2,250 円
じきょうじゆつ 自 彊 術	血行や気の流れをスムーズにする健康体操です	第2・4(金)	19:30～21:00	町民交流センター「いこっと」	月額 1,500 円

■総合クラブひろかわ事務局（教育委員会事務局生涯学習係内） ☎ 0943-32-0093

# 広川文芸

## 広川短歌会



手ぬぐひを切りてマスクに作り替ふ白に柳の若葉模様  
 コロナ菌世界中ににじみゆく風のごとくに水のごとくに  
 高齢に高血圧に喫煙あり 全部抱えてアナグマ戦法  
 散歩道銀杏なみきの新緑に三密避けてさわやか空気  
 登校の姿も見えず四月過ぐコロナコロナに振りまわされて  
 はらはらと散りゆくさくらうら寂しコロナウイルスいつまでつづく  
 夫も子も早やばや逝きし祖母われに孫がくれたる除菌ブロッカー  
 三密に部屋に引き込み減入りいる さあ買い出しだ遠回りして  
 赤々と大きな夕日は山の端へ明日の晴天約束されて  
 花吹雪嫁ぎしひとの肩で舞ひ幸ある門出永遠に祝はむ  
 もう二度とこの手に届くこともあらむ英文の手紙數十通を燃す  
 極薄墨の三本線をひきました古い名簿の和子の上に  
 まぎれもなくこれは兵器ぞ世界中のたみびとを打ち経済を討つ  
 花ざかりの梨棚のした蜂が飛び蝶も舞い飛ぶ お茶一服す

青木佳代子  
野中 勝美  
蓮子 住雄  
姫野 洋子  
中川原勝代  
野中ヨシ子  
原 千恵子  
結束 節子  
高橋 和子  
横山 方子  
鹿田 恵  
美座 時朗  
山下 整子  
姫野 深幸